

UNITE
FOR
GOOD

2025～2026 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人



よいことのために 手を取り合おう

RI 会長テーマ

会 長 菅野 嘉洋

副会長 三田地大悟

幹 事 松田 福美

= 会長指針 =

そして社会も磨きましょう

．．． 例 会 記 録 ．．．

9 月第 2 週例会 2025 年 9 月 11 日（木）

ソ ン グ : 我等の生業 ボックス : 20,000 円 (報告者 佐藤裕貴会員)

お客様紹介 : 大船渡地域振興センター 荒屋 優志様

ジョブサポートデスク気仙 藤原 範子様

本日出席率 : 67.74% 前回修正後 100% (メンバー 10 名) (報告者 古内一二会員)

★ 会長の時間 菅野 嘉洋会長



今日は「東高校模擬面接会に参加して」というお話をしたいと思います。

9/9 (火) 大船渡東高校において毎年恒例となっております「模擬面接会」を実施いたしました。模擬面接会については東高校側からも、本番の面接に臨む前の度胸試し的な貴重な場、としてぜひ行って欲しいとのお話をいただいておりますし、ロータリークラブとしてもこれからの世を担う学生の手助けができるという点で、大変意義のある事業と私は認識しております。

私は今まで面接室の外の廊下で待機する生徒の案内係として参加してまいりましたが、今年は面接室（教室）の中で面接官と一緒に生徒の面接に立ち会うと

う役割をいただきました。

男女合わせて 6 名の生徒さんの面接に立ち会ったのですが、みなさん総じてレベルが高い！すごく緊張しているなということは伝わってきますが、立ち振る舞いに、もさくさしたようなところはなくピシッとしており、話も多少言葉に詰まるところはあっても、はっきりと明瞭な受け答えがほとんどの生徒さんができていたと思います。学校側からは「うまく言葉がでてこない生徒さんもあるのでその点は配慮してください」との話をいただきましたが、たまたまなのか担当した生徒さん達にはあまり心配になるような点はありませんでした。

面接という短い時間の中で、どこまでアピールできるか、というのはとても難しい作業だと思います。面接官側から見た感想としまして、限られた面接時間の中で人間性というか、大丈夫な人を見定めるのは至難の業じゃないかと思います。ただ、この生徒さんたちが真剣に向き合っているということは強く感じます。そして、この真剣な姿勢の高校生に向き合うことができたことは、とても貴重な経験だったと思います。すごく刺激になるというか、未来への光明が見えたというか、なんだか清々しい気持ちになりました。多分、一緒に担当した面接官も同じような気持ちだったのではないかと思います。これは、気仙地域ではインターアクトクラブを持つ当クラブ以外では経験できない体験ではないかと思います。

今回参加できなかった会員の方たちも機会がありましたら、ぜひ今後ご協力、ご参加をお願いしたいと思います。また、具体的な話は何もありませんが、今後西クラブがインターアクトクラブ、東高校へ力になれることがあれば積極的に関わっていきたいと思います。当クラブの会員のメンバーが、高校生に対し伝えられることはすごくたくさんあるのではないかと思います。特に人間性という点において。当クラブのメンバーの皆さんはそれこそロータリークラブの活動も含めいろんな経験を積んでこられた人ばかりです。その人たちの卓話をクラブ内だけで聞きくのはもったいない。多くの、それもこれからの人たちに聞いてもらいたい、ということを私は常々思っております。

き継ぐ形で、令和5年度に大船渡地域振興センター内に開設されました。

管内の高校への就職支援は引き続き行っており、例年、主に大船渡東高校、高田高校、住田高校に支援を行っております。

始めに、岩手県全体と地域それぞれの高校生の進路状況から説明いたします。

岩手県全体でみると、直近5年間で、令和2年3月卒が10,630人いましたが、令和6年3月卒は8,775人しかおりません。5年で約2,000人、約18%減っており、少子化、人口減少が急速に進んでいることが分かります。

また、進学者の比率が、徐々にですが増えており、最近の進学志向の増加が見て取れます。

次に気仙管内の高校生の進路状況です。気仙3市町の高校生の就職者、進学者を積み重ねたものです。青っぱいのが進学者、赤っぱいのが就職者になります。

気仙管内でも少子化の影響で、令和2年約27%減の354人しかおりません。

就職率は母数が小さく安定しませんが、割的には変わらず、概ね4分の1が毎年就職しております。

ジョブサポートデスク気仙では、毎年こ

の4分の1の高校生全員を対象に、進路相談や面接練習の支援を行っております。

概ね5月のゴールデンウィーク明けから各学校の支援が始まり、9月当初の就職活動解禁を目途に、学校への訪問を行います。面談の回数は最終的に生徒1人あたり3回～4回程度になります。

9月以降も面接日が遅い生徒や、第一志望の企業に入れなかった生徒の支援を続け、全員の進路が決まるまで、粘り強く支援を続けております。

それでは、実際に支援訪問を行っている藤原から、支援の現場のお話をしたいと思います。よろしくお願いします。

藤原様：

私の方から、初めに就職状況をお伝えします。

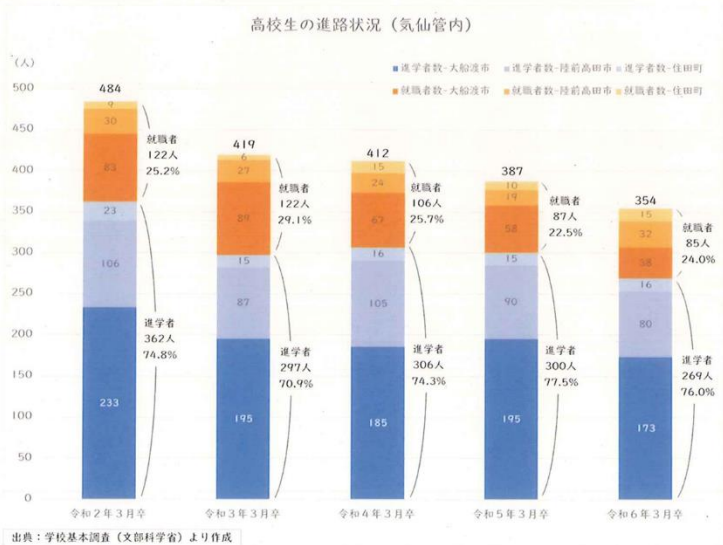
令和6年度の就職者数は73名で、管内30名、県内16名、県外27名で内定率は100%でした。

今年度は、希望者数が昨年度から11名増の84名で、管内35名、県内20名、県外29名です。

次に、各校の生徒の特色をお伝えしたいと思います。

まずは、毎年、就職希望者が多い大船渡東高校ですが、実業高校ということで、企業からのアピールが多く、人材獲得のため県内外から採用担当者が来校しています。新年度に入るとすぐに、企業から訪問のアポイントの電話が数多く入って来ます。生徒は、在籍している科の資格や検定を取得し、手に職をつけることを意識しています。それでは各科の特色についてお話します。

機械電気科は、早くから資格取得意識や将来設計など、就職の意識が高く、目標を掲げている生徒が多く見受けられます。高校受験の時から、すでに就職先を見据えており、「この会社に就職したいから機械電気科へ入学した。」という声が多く、先生や先輩からの就職情報が豊富です。



農芸科学科は、農業を希望する生徒が多いですが、農業の求人は少ないので、どうしても就農したい生徒は、農業大学校へ進んでいます。就職先は、様々な職種を選択しています。

情報処理科は、簿記検定取得に励む生徒とそうでない生徒がいます。簿記検定など力を入れている生徒は、銀行や郵便局を目指し就職しています。ただ事務の仕事は少なく、特に男子生徒で事務職は難しい現状です。

食物文化科は、卒業と同時に調理師の免許取得が可能なため、調理師として働きたい生徒が多いです。手先が器用で、落ち着いた印象の生徒が多いです。ホテルや施設の調理師や家庭科の先生を目指す生徒もいます。

次は、高田高校です。

普通科の就職先は、管内企業から選択したり、先輩の就職先を参考にしたりする生徒が多いです。普通科でも技術職を選択する生徒が複数見られます。どちらかといえば、就職したい企業が明確な傾向があります。就職したい会社の開拓をしたり、家族の紹介で就職先を決定したりする生徒もいます。

海洋システム科は、実際に海で実習する経験が多いことから、定置網、養殖、潜水土を希望する生徒がほとんどで、就職に真剣に取り組んでいます。

最後に住田高校です。

就職希望者は例年少ないですが、学校側は企業選択のために積極的に見学に行かせています。住田高校は少人数で、先生方と生徒の距離が近く気軽に就職相談ができる環境です。生徒は、大人しく少しシャイですが、学校で実施している地域創造学を通じて、社会的実践力を身に付け、就職活動を頑張っています。

次に職種についてですが、昨年度と今年度同様、製造、技術、サービスなどの希望が多いです。

生徒は、自分で企業を調べて企業選択するというより、学校で開催しているインターンシップや企業説明会、企業見学会を参考に選択する生徒が多いようです。また、保護者の希望や意見が影響していることも少なくありません。

今後の課題としては、地元企業への関心を持って情報を得たり、就職する意識を早めに持って、企業研究を早い時期から行うことが大切になってくると言えます。

今年度も、来週(火) (9/16) から就職試験がスタートになります。

無事、全員内定をいただけるように、微力ですが支援していきたいと思います。

荒屋様

ありがとうございました。

正直なところ、管内の高校生は地域の企業をよく知らないことが多い印象です。

県を含む地域機関でも、企業説明会や企業見学会、出前授業等を行ったりしておりますが、それでも先生や家族のすすめだけで就職先企業を決めたり、なんとなく都会に行きたいと県外企業を受けたりすることもあり、十分に検討をしているとは言い難いケースも見受けられます。

高校には県内外を問わず凄まじい量の求人が届けられており、高校の中で整理が追い付いていません。そのため、郵便で届いただけの求人は山のように積まれて置かれてしまっています。高校でも生徒に就職する企業を勧めることがありますが、そちらで使われるのは主に直接訪問し細かい説明を行った企業のものです。ですが、企業訪問を行う企業も、現在は県外の企業が多くなってきており、人材獲得競争の激化を感じております。

このような現状を踏まえて頂き、各企業様には、是非とも各高校へ直接訪問し、自企業の良さを御説明頂ければと思います。

また、最近は就労条件が非常にシビアに見られています。賃金はもちろん、休日の日数や諸手当の有無、就労環境の良さなど、いわゆる福利厚生です。

県では企業認定制度をいくつか持っており、沿岸広域振興局でも今年度、「いわて女性活躍認定企

業」の認定に力を入れています。お手元にチラシ等を配っておりますが、名前通り、女性の活躍推進に取り組む企業を認定するものです。

認定されると県の入札で有利になったり、補助金の要件になっていたりするほか、求人票にも認定されていることを標記できます。高校生を含む求職者はこういった認定もよく見ておりますので、企業イメージや人材確保の面からも認定登録しておいて損はありません。

ステップ1と2があり、ステップ1は比較的簡単に取得ができます。必要なのはセミナー等の受講と、宣言書の作成のみです。

当センターでも認定登録のお手伝いをしており、直近のセミナーの御案内や宣言書の書き方のアドバイスもいたします。お配りした資料のほうには、直近のオンラインで受講できるセミナーの御案内と、各事業所様で既に取り組んでいること、これから取り組むことに併せた宣言書の記載例を用意してございます。

ステップ1は手間も少なく登録できますので、まだ登録されていない場合は、ぜひご登録頂ければと思います。

長くなりましたが、お話しは以上になります。御清聴頂き、ありがとうございました。

◆ 例会後の清掃作業 お疲れ様でした。 ◆

育みの像 : 1971年建立 彫刻家 森大造氏作



50周年記念碑 : 2020年創立50周年の記念碑 金澤翔子様揮毫を刻む

